



東陽の旋風^{かぜ} ～自立貢献～

令和4年4月15日（金）No 2 発行
文責：松本 卓也

初々しくも凜とした姿に東陽中の明るい未来を感じました

多くの保護者の皆様のご臨席のもと、第54回入学式を盛大且つ厳粛な中に挙行することができました。入場する新入生の初々しい姿や氏名点呼でのハキハキと返事する凜とした姿に東陽中学校の明るい未来を感じました。生徒会リーダーの歓迎の言葉や新入生誓いの言葉には、新しいことへの挑戦や自分たちの力でよりよい学校づくりをしていきたいという決意が述べられており、校訓の一つである「自主」の理念の具現化を期待させるものでした。

学業に、部活動に、学校行事に、そして社会貢献にと、「共に学び、共に伸びゆく東陽中生」を育てていきたいと思えます。保護者の皆様、本日はご臨席誠にありがとうございました。



学校だより「東陽の旋風」を発行します

学校だより「東陽の旋風」を基本的には金曜日にお届けします。学校全体や学級の様子をタイムリーにお伝えできればと考えています。個人情報保護の観点から、写真や名前をわかりづらい箇所があることを予めご了承下さい。【編集後記】には、私の思いや考えを書いていきます。返信欄にご意見や感想をいただければと思います。担任の先生、または校長まで届けていただければ幸いです。ご愛読よろしくお願い致します。



個のよさ輝く「納豆集団」へ

※全校集会で話した内容です。今井和子著「友達関係の育ちとあそび」において、個と集団の育ちを豆腐と納豆に例えています。豆腐集団とは、一つ一つの豆型をすりつぶし、個は原形をどめおらず、納豆集団にはめて作った見かけだけの集団、納豆集団とは、個性を大事にしなごら、それぞれが必ずや必要に応じて糸を引き合い、心を通わせながら合っていく集団です。東陽中では、「個」を育てながら人と人との関わる喜びを実感させ、個のよさ輝く「納豆集団」を目指します。



【編集後記】～「教科書無償の話」～

▼子どもたちは、新しい学年になり、新しい教科書を手にし、今から始まる学習に期待を膨らませていることでしょう。その教科書が無償で給付されるようになったのは、1960年代に起こった高知県長浜での「教科書無償の闘い」があったからです。▼高知県長浜では、長い間差別と闘ってきた歴史がありました。差別をなくすための学習を続けてきたお母さんたちは、憲法26条の「義務教育は、これを無償とする」という記述に気づきます。それを抛り所にし、「教科書をタダにする会」を立ち上げ、各地で集会を行い、署名活動を行いました。▼その運動は全国に広がり、ついに政府を動かすこととなりました。運動から1年後、教科書無償にする法律が成立し、1969年、ついに、全小中学校で教科書が完全無償になったのです。▼「無償」といいますが、実は0円ではありません。これから日本を担う子どもたちへの期待を込め、国民の皆さんがお金を出してください。▼「すべての子どもが平等に安心して勉強してほしい」という願いが込められた教科書です。私たちはその思いを受け止め、教科書を大切に扱い、しっかり学習していきたいと思えます。



※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（ ）